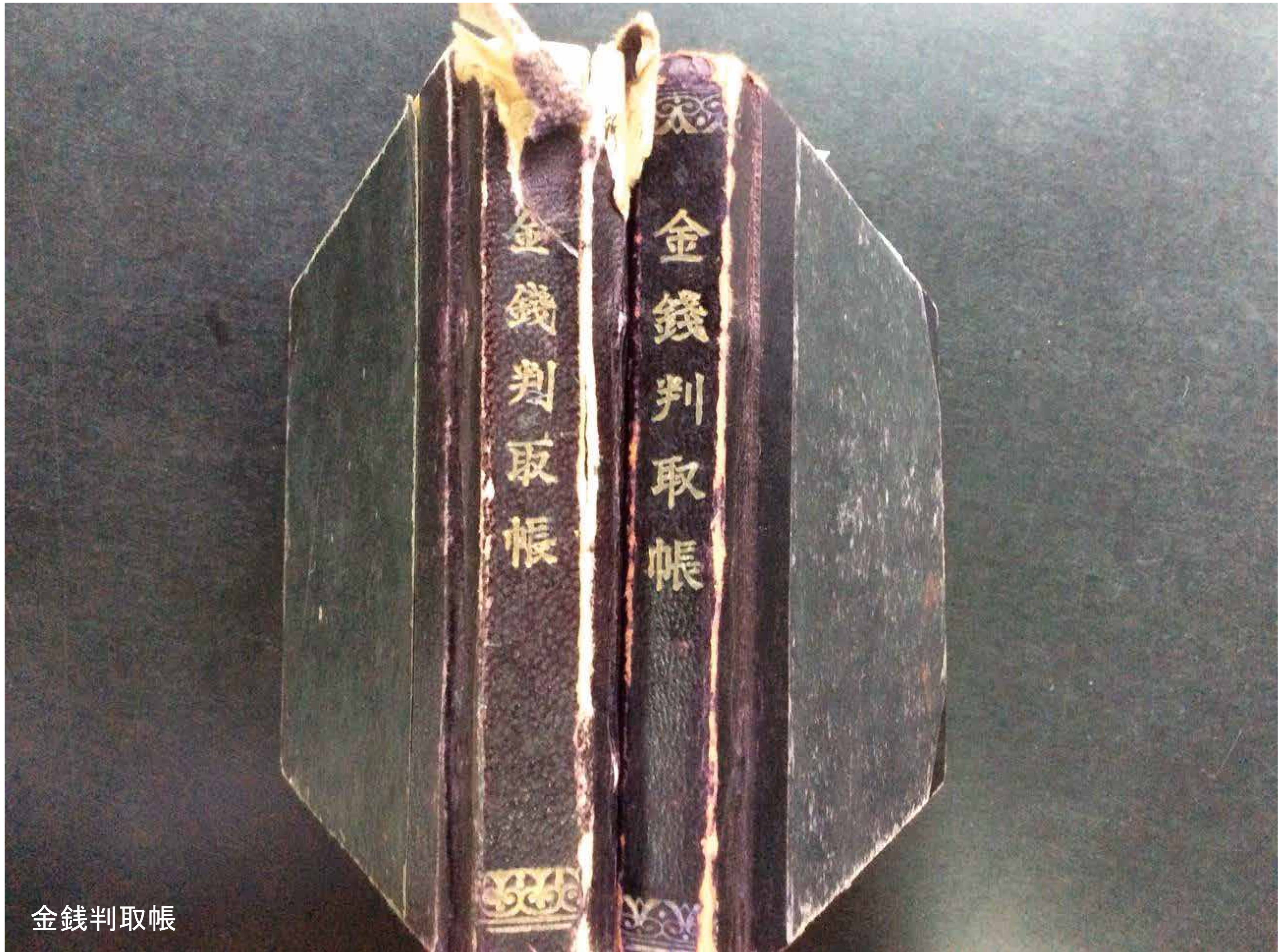


# 金銭判取帳が語る茶取引、関連業者のこと



金銭判取帳

江戸時代から商家・商店などで用いられた商業帳簿の一種。金品を受取ったという証拠に先方に印を押させるもので、後日の紛争を避ける目的をもっていた。1枚物と違って綴じてあるので紛失の心配がなく、広く用いられた。

しかし商業の発達による近代簿記の普及につれて、次第にその姿を消していった。

**ここで紹介するのは、当店の金銭判取帳：1951(昭和26)年～1953(昭和28)年の記録。**

## 縄・苴(むしろ)業者

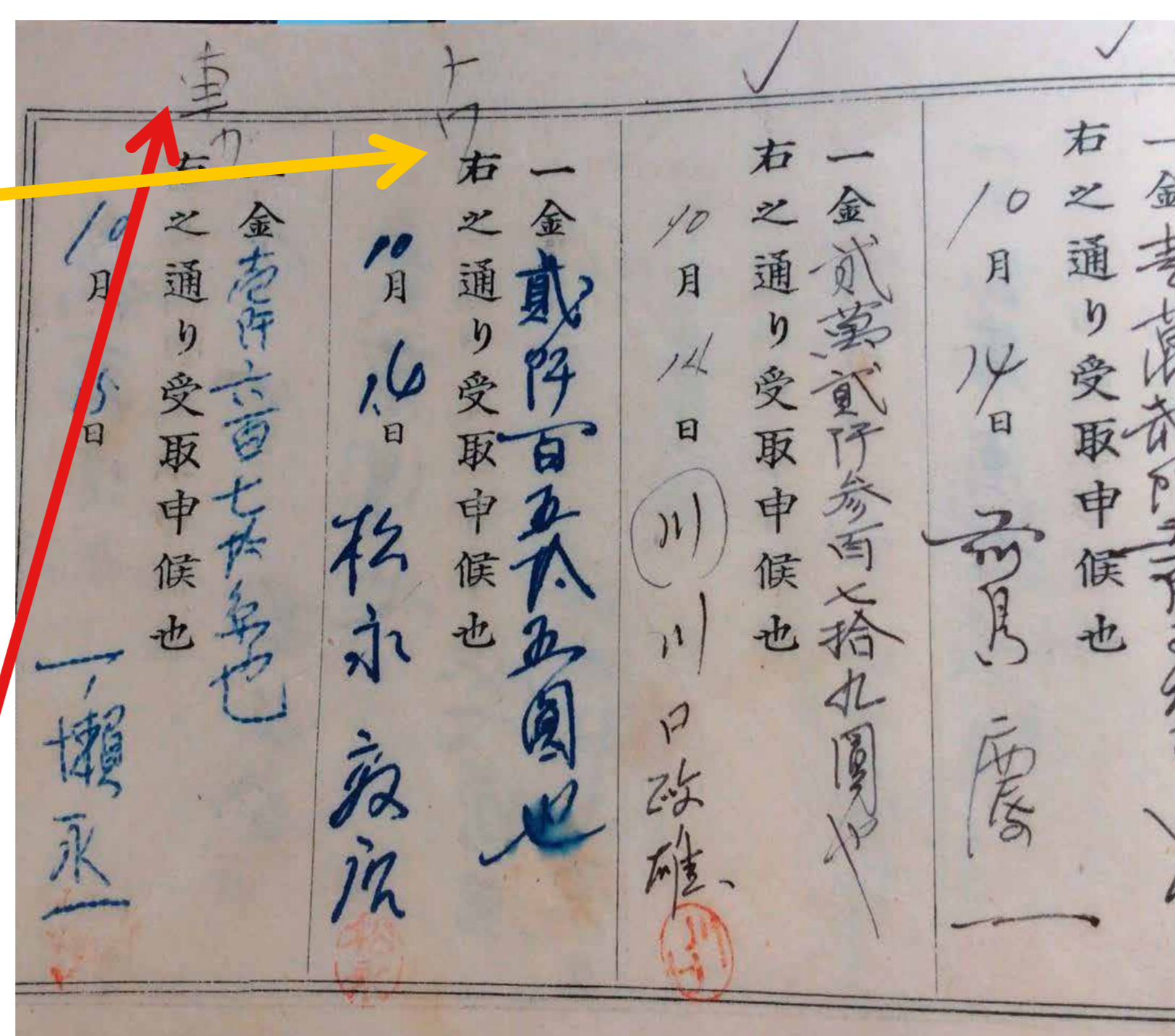


茶箱の荷造りに欠かせなかった縄だったが、ダンボール、PPバンドの普及で、その多くが閉店した。

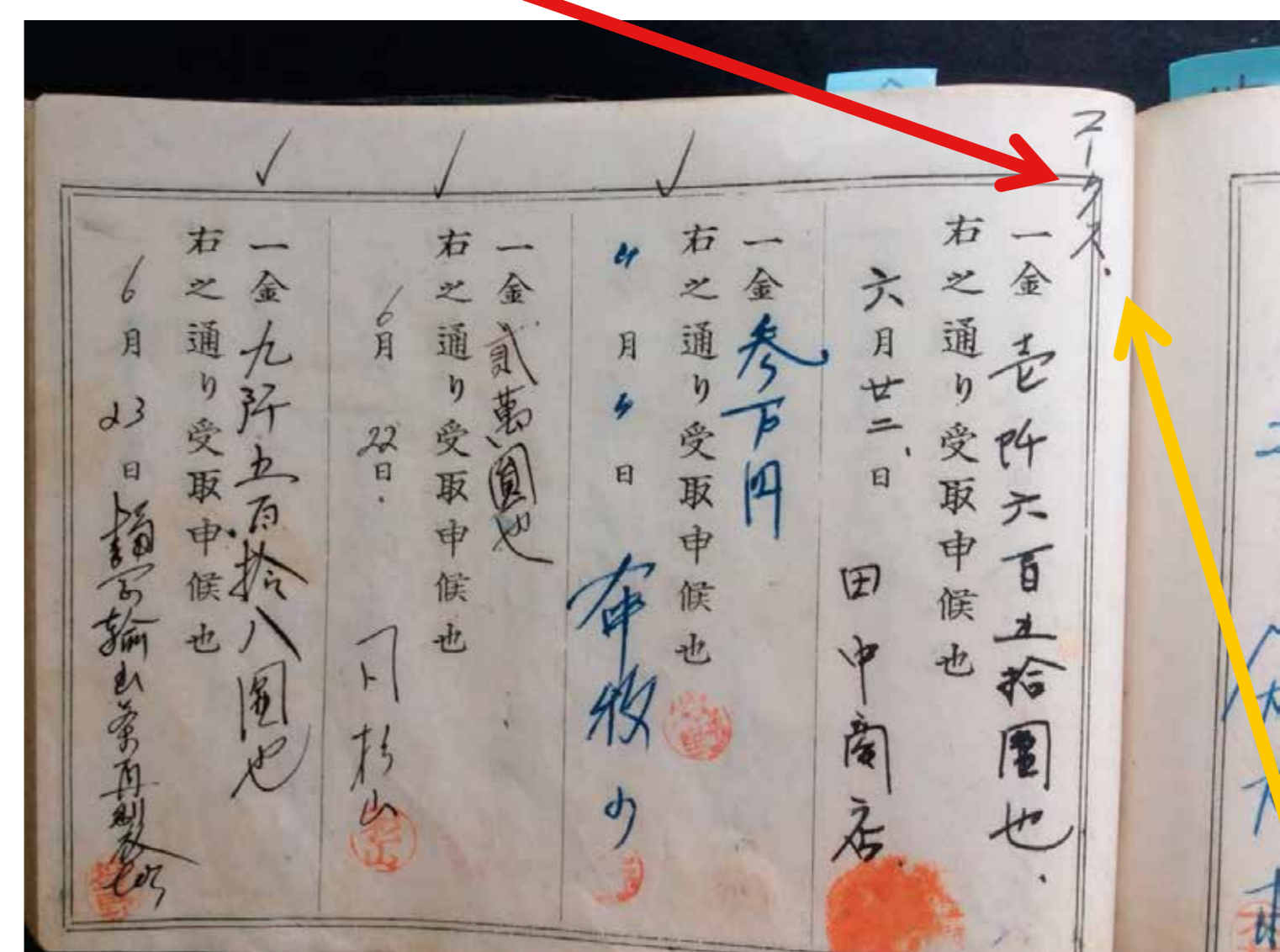
## 車力 (市内における茶の運送業)



現在も静岡市内で、運送業者・一乃瀬運輸(株)として、茶市場取引の茶を配送している。



茶再製工場の乾燥機で使用する燃料  
石炭→**コークス**→A重油→プロパンガス→都市ガス→電気  
(1946年頃) (1953年頃～)



燃料業者 田中商店 → 現在は 田中産商(株)

<http://www.tanaka-gp.co.jp/>

明治44年  
静岡瓦斯(株)が産出するコークス、コールタールの一手販売を行う。  
昭和24年 株式会社田中商店と改組  
昭和27年 石油製品の販売開始